

から

從_レ天生大突厥……始波羅可汗

と稱し、その他唐代の突厥・回紇の間では、「天^④上得……可汗」とも稱した。それ／＼ *tängriḍä yaratmıš* 及び *tängriḍä bolmıš* の譯語である。此の如く「天の立てたる」、「天から生れたる」、「天上から得たる」などといふ語を、可汗即ち皇帝の名の上に冠することは、既に北族の間に於ては遠く漢代から引續いて認められることであるから、蒙古で「天賜」といふ語を成吉思皇帝の名の上に冠したのも、この流を汲んだのであると解するのが至當である。最後の「疾」といふのは、思ふに疾即ち急速の意で、此の牌札を有する使臣に對して、急速敏捷の行動を命じたものと解すべきであらう。成吉思汗の侍臣劉仲祿の懸けた虎頭金牌には、「如^⑤朕親行、便宜行_レ事」と記されてあつたといふから、これは諸事すべて可汗と同様に便宜の處置を執り得る特權を與へたのであるのに對し、この素金牌は、それ程の特權を與へたのではなく單に急速に使命を果す爲の使臣であることを證する爲に與へたのに止つたのであらう。而してこの素金牌に伴ふ特權については、別にこれを規定した聖旨が使臣に與へられたこと余が曾て蒙古驛傳考に於て述べた如くであるが、然も成吉思汗の當時から既にかゝる制度が行はれてゐたか否かは判然とは定め難い。なほ此の牌の目的については、裏面に記された文字とも考へ合すべきである。

蒙韃備録には、この素金牌の裏面に關しては何事も記してゐないが、新出土のこの牌には卷頭圖版のB圖について認められるやうに、漢字に類して然も漢字に非る二字が刻出せられてある。成吉思汗の時代にかゝる文字が用ゐられたとすれば、何人も先づこれを女眞文字ではないかと疑つて見るであらう。併しながら今日に知られて居る女